

体験談レポート

ユーザー： K.Kさん (40代・男性) 埼玉県
商品名： フラッドラッシュスキムメッシュソックス
スパイルフィルアルパインソックス
テスト日時： 2009年12月29-31日
アクティビティ： 登山(劔岳)
テスト環境： 12/29 快晴(雪上平坦地 - 3 750mまで)
12/30 曇り/風雪(雪上急傾斜登高 - 8 2300mまで)
12/31 吹雪(雪上急傾斜下降 - 10 2300mから下降)
当日のレイヤリング： (ソックス)フラッドラッシュスキムメッシュソックス / スパイルフィルアルパインソックス
(ボトムス)ストームゴージャルパインパンツ、他社雨具/スパッツ



～ 足先の濡れを全く感じないことに驚いた～

所属する山岳会の冬合宿で、3年連続劔岳。小窓尾根を計画したが、冬山初シーズンの新人がいるメンバー構成と天気予報を考慮して、早月尾根から登るルートに変更した。

12/29(初日)

伊折の集落から馬場島までの道を歩く。悪天候で名高い劔岳には珍しい快晴だった。劔岳の雪は湿雪。八ヶ岳や富士山のようなサラサラな雪ではないため靴下も濡れる環境で、足指の凍傷に注意が必要だ。無雪期には車が通る道をひたすら歩いて馬場島に到着。去年は汗で靴下が濡れた記憶があるが、今年は全く濡れを感じない。

翌12/30

天候は悪化しているが、まだ視界はあるし、冬の劔岳は天気が悪くて当たり前。早月尾根の急な登りをラッセルしながら上部を目指す。1900mを越えたあたりから急激に風が強くなり、雪も降り出してきた。早月小屋に着くと、富山県警山岳警備隊から「非常に天気が悪くなる。風も強くなるし雪も大量に降る予報なので、小屋に泊ったほうが良いのでは？」とのアドバイスを受ける。風速計が40mを振り切ったと言われ、地元の強力山岳会メンバーもテントをやめて小屋に入るといことなので、私達も小屋に逃げ込むことにした。かなりの運動量があったのに、やはり靴下の濡れは無いことに驚いた。

12/31

夜中に1m以上の積雪があり、風も強い。とても頂上へアタックできる天候ではなかった。明日に向かってさらに悪くなるとの予報のため、今日中に下山しないと、いつ下山できるか目処が立たない。地元山岳会や他の登山者と一団になって、今日下山することにする。全くトレースの消えた雪山を交代でラッセルして下山ルートをつける。風が強く、顔にあたる雪が痛い。気温が低く、濡れは全くないが足の指先が冷たい。シングル革靴が主流になっているので、靴の保温性には不安が残る。今回のソックスは薄いので、さらに厚手のソックスを重ねたほうが安心だろう。下山するにつれて気温が上がり、指先も温くなった。



今回フラッドラッシュスキムメッシュソックスとスパイルフィルソックスを重ねて着用して驚いたのは、濡れを全く感じないことだった。湿った雪の劔岳をはじめとした北アルプスや谷川岳などでの冬期登山は、濡れに対して非常に神経質な対応が求められる。今回は歩きだけの登山であったが、激しい動きとパートナーを確保して止まっている時間が長いクライミングでは、さらに汗による濡れが凍傷の危険を大きくするため神経を使っている。濡れることによる寒さ冷たさに対して非常に有効な装備として活用したい。